令和元年度 東神楽町地方版総合戦略 効果検証報告書

北海道東神楽町

【目次】

1		人	口動	態						•	•			•			•										1	
(1)	総人		の推	移	, •				•				•		•										1	
(2)	年齢	洌.	人口	の	推	移						•	•												1	
(3)	自然	増	減、	社	:会	増	減	•	出	生	数		人		増	減	の	推	移						2	
2		玅	果検	証(の基	本	的	な	考	え	方																3	
(1)	効果	検	証の	目	的																				3	
(2)	効果	検	証の)対	象	及	び	手	法																3	
(3)	効果	検	証の	流	れ																				3	
3		玅.	果検	証(の具	L体	的	な	方	法																	3	
(1)	総合	·戦	略の)効	果	検	証	に	つ	い	て														3	
(2)	地方	:創:	生関	連	交	付	金	事	業	の	効	果	検	証	に	つ	い	て							5	
										-	-			-	-													
4		東	神楽	町:	地方	版	総	合	戦	略	の	効	果	検	証												6	
(1)	基本	事:	項•																						6	
(2)	一· 総合	·戦	· 略全	`体	ග	評	価																		7	
`		•	1.5	124.			- •																					
5		坩	方創	生	関連	交	付	金	事	業	の	効	果	検	証												2	4
(1		北北						-									榼	築	プ		ジ	I	ク	 		2	5
•)																										6
•		•	東神			_	_			•				•				-	•									7
		•	ひじ	•	-				•		•			-	•													8
		•	大雪:	•							•	-							-	•		齿龙	苦盆	瓦重	業			9
١,	$\mathbf{\sigma}$	/	ハヨ・	,, ,	` ' ~	. –	<i>_</i> ,	<i>,</i> ,		, _	6	ו עם	ויום	· ±	-/\	/		, ,	,	- 1	•نا•	~~`	ゖォ	≺₹	゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙		_	J

1. 人口動態

(1)総人口の推移

東神楽町の人口は、国勢調査によると昭和50年の5,109人から増加傾向に転じ、平成27年7月末の住民基本台帳では10,317人まで増加した。

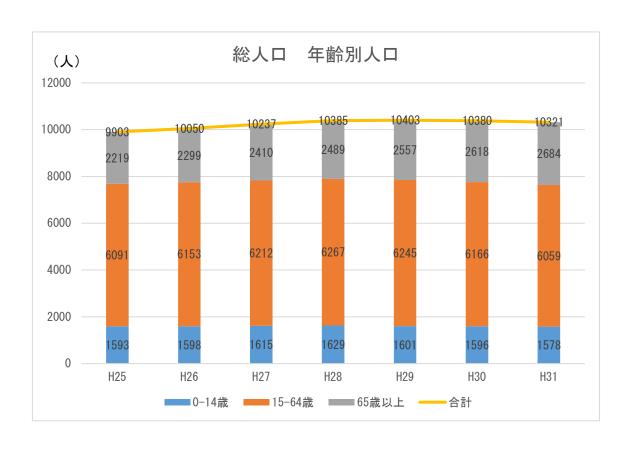
近年の人口の推移を見てみると、平成 25 年 1 月には 9,903 人だった人口は、同年 10 月に 10,000 人を超え、その後も増加を続け、平成 29 年には 10,400 人にまで達した。

しかし、その後は減少傾向に転じ、平成 31 年 1 月では 10,321 人となっている。

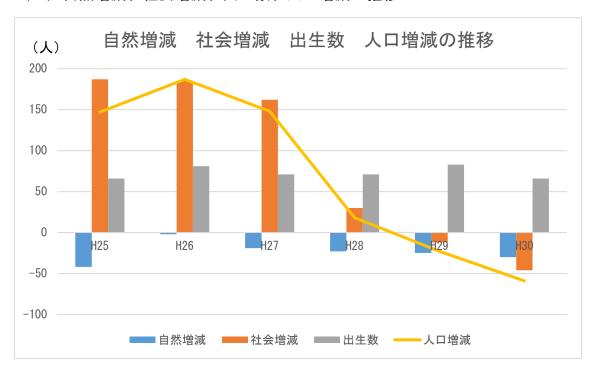
(2)年齢別人口の推移

次に年齢3区分別の人口の推移を見てみると、平成25年から平成28年までは全区分において人口が増加してきたが、平成29年以降、年少人口、生産年齢人口がともに減少する中、高齢者人口のみ増加している。

その後も年少人口、生産年齢人口は減少を続け、総人口は減少しているが、高齢者人口のみ増え続けていることから、高齢化が進んでいることがうかがえる。



(3) 自然増減、社会増減、出生数、人口増減の推移



(人)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
自然増減	-42	-2	-19	-23	-25	-30
社会増減	187	185	162	30	-12	-46
出生数	66	81	71	71	83	66
人口増減	147	187	148	18	-23	-59

2. 効果検証の基本的な考え方

(1) 効果検証の目的

東神楽町地方版総合戦略(以下、「総合戦略」という。)に位置づけた各施策及 び地方創生関連交付金事業の推進に向けて、今まで実施してきた事業の進捗管 理や、効果と課題を検証することで、確実に事業効果を発揮させることを目的と して効果検証を行う。

(2) 効果検証の対象及び手法

効果検証の対象	手法
総合戦略	総合戦略全体評価・重点項目及び具体事業の評価
地方創生関連交付金事業	重要業績評価指標(KPI)の達成度評価

(3) 効果検証の流れ

東神楽町地方版総合戦略庁内検証会議による内部検証ののち、東神楽町地方版総合戦略検証委員会により外部検証を行う。また、検証結果については、東神楽町議会に報告し、町 HP で公表する。

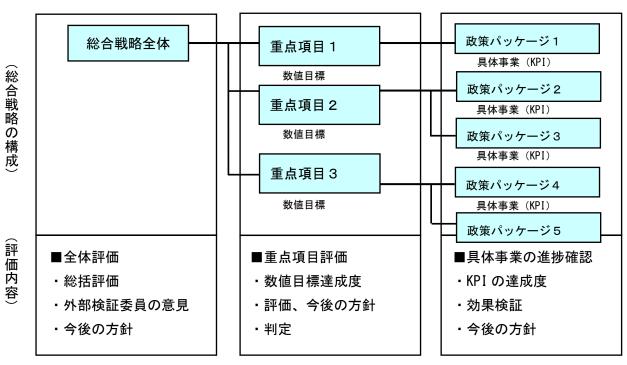
3. 効果検証の具体的な方法

(1)総合戦略の効果検証について

総合戦略の効果検証は、総合戦略全体評価、重点項目及び政策パッケージに掲げる具体事業の評価で行う。

なお、検証にあたっては、3つの重点項目ごとに設定した数値目標と具体事業 ごとに設定した重要業績評価指標(KPI)の達成度を確認し評価するものとする。

総合戦略の効果検証イメージ



3

【評価内容に関する説明】

- ①総合戦略全体
 - (1) 総括評価
 - ・総合戦略全体の評価
 - (2) 外部検証委員の意見
 - ・町の全体評価に対する外部検証委員の意見
 - (3) 今後の方針
 - ・全体評価及び外部検証委員の意見を踏まえた今後の展開・方針

②重点項目

- (1)数值目標
 - 実績値、達成度
- (2) 判定
 - ・数値目標の達成度

A:計画どおり進んだ B:概ね計画どおり C:少し進んだ

D:遅れている

- (3) 評価、今後の方針
 - ・判定を踏まえた今後の展開・方針

③具体事業の進捗確認

- (1) KPI の達成度
 - ・目標値に対する実績値の割合 達成度(%)=実績値/目標値×100

判定

- KPI の達成度
 - ◎:目標達成(100%以上) ○:概ね予定どおり(40%以上)

△:遅れている

- (2) 効果検証
 - ・事業実施による効果の検証
- (3) 今後の方針
 - 効果検証を踏まえた今後の展開・方針

(2) 地方創生関連交付金事業の効果検証

①地方創生関連交付金事業

交付金	事業名	事業年度	担当課
地方創生加速化交付金事業	北北海道に貢献する"稼ぐ"旭川空港	H28	旭川市(まちづくり推進課)
	構築プロジェクト		【連携事業】
地方創生加速化交付金事業	健康食育による"稼ぐ"地域産業育成	H28	健康ふくし課
	事業		
地方創生推進交付金事業	東神楽ブランド創出産業支援事業	H28-H30	まちづくり推進課、産業振興課
地方創生拠点整備交付金事業	ひじり野地区コミュニティ拠点施設	H29	まちづくり推進課
	整備事業		
地方創生推進交付金事業	大雪カムイミンタラ DMO による都市	H30-H32	旭川市 (産業振興課)
	型スノーリゾート地域構築事業		【連携事業】

②検証方法

- (1) KPI の達成度
 - ・目標値に対する実績値の割合 達成度(%)=実績値/目標値×100
- (2) 効果
 - 事業実施の効果
- (3)取り組みの検証
 - ・改善の余地及び今後の展開・方針
- (4) 外部検証委員による評価
 - ・総合戦略に対する事業の有用性、意見等

4. 東神楽町地方版総合戦略の効果検証

(1) 基本事項

①総合戦略の趣旨

東神楽町地方版総合戦略は、「まち・ひと・しごと創生法」の施行により国が平成 26 年 12 月に策定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案する形で、地方版総合戦略として東神楽町人口ビジョンと一体的に策定した。

策定にあたり、平成25年に策定した「第8次東神楽町総合計画」及び平成26年に策定した「東神楽町地区別まちづくり計画」との整合性を図ることとしている。

②総合戦略の期間

平成27年度から平成31年度までの5年間

③総合戦略の目標・取組

人口ビジョンにおいて推計した東神楽町の将来人口は 10,400 人(平成 32 (2020)年の推計値)を 10,500 人にまで上乗せし、今後も 10,000 人程度の人口規模を維持し続けることを目標に、あらゆる世代が安心して生活を営み、地域の活力を維持するための施策を実施する。

④総合戦略における重点項目

- (1) 地方における安定した雇用の創出 人口の増加傾向を維持するため、企業活動を活性化し、町内で働く住民 を増加させる。
- (2) 地方への新しい人の流れを作る 旭川空港や花のまちを活用した誘客等により交流人口を増やすととも に、住環境の充実により移住・転入者を増やす。
- (3) 安心なくらしを守るとともに、地域間連携を図る 継続し安心した暮らしを続けられる環境づくりや、地域住民の活躍の 場の創出、また、地域間連携による取り組みにより町の知名度の向上を図 る。

(2) 総合戦略全体の評価

①総括評価

東神楽町における人口の増減については、転入超過による社会増と出生数の増加が相まって、平成 25 年には人口が 10,000 人を超え、その後も人口はさらに増え続け、東神楽町人口ビジョンでは、平成 32 年に人口のピークをむかえ10,402 人になると推計されたが、実際には、平成 29 年に 10,400 人を超え、推計より早く人口のピークをむかえたが、その後人口は減少傾向に転じている。

それは、充実した子育で支援や特色ある学校教育などとあわせて、造成した宅地が好調に販売されたことにより、転入が加速的に進み順調に人口が増加したものの、宅地の完売以降は、転入による社会増の伸びが鈍化し、さらには減少に転じたものと考えられる。

このため、今後も人口は減少局面に入るものと推察されることから、現在の人口を維持していくためにも効果検証を踏まえながら、さらに着実に事業を推進するとともに、新たな施策を講じる必要がある。

②外部検証委員からの意見

東神楽町の人口は増加してきたものの、これはひじり野地区の増加によるもので、他の地区の人口については減少している。今後は、ひじり野地区の人口の 増加は見込めないことから、町の人口を維持することが課題とされる。

人口を維持するためには、進学や就職による若い世代の流出を防ぐことが肝要であり、地域と一体となった子育てや教育により、子ども達の地域愛の醸成を図り、町の将来を担う子供たちを育成するのと同時に、地元から進学や就職できる広域的な環境づくりが必要である。

また、現在はどの業種においても人材不足に直面しており、雇用の確保が困難な状況にあるため、稼ぐ産業の育成と合わせて、企業 PR やイメージの向上により企業のブランドカを高めつつ、町の知名度も向上させる必要がある。

さらには、新規創業を促進させる環境整備や市街地の再開発、また、東神楽町へ訪れる者にやさしい町づくりにより交流人口を増加させることも必要である。 東神楽町は人口減少の局面に入り、一層高齢化することが見込まれることから、健康施策の実施により、健康で元気に暮らし続けられるまちづくりを推進する必要がある。

③今後の方針

今後、現在の人口規模を維持していくため、引き続き若い世代の定着・転入を 促進するとともに、安心して子供を産み育てられる環境づくりを推進する必要 がある。そのため、妊娠期から子育て期、さらには保育や幼児教育、学校教育ま で切れ目ない支援を継続するとともに、あわせて高齢化などによる転出に対応 した住宅施策などを講じることで、若い世代が住みやすい、また、住みたくなる 町づくりを行っていく。

また、今までは、人口は増加してきたものの、一方では、企業数、事業所数は減少傾向にある。

企業や事業所数が減少することで、更なる人口減少に繋がる恐れあることから、創業支援などにより企業等を増やすとともに、企業の生産性の向上や地域のブランド化、雇用の環境づくりや交流人口、関係人口の増加をめざし、賑わいのあるまちづくりに取り組む必要がある。

さらには、SDGs を原動力とする地方創生への取り組みや Society5.0 に向けた新たな技術にも注視し、また、人々の健康や環境に配慮した取り組みにより、全世代が安心して暮らせるまちづくりと、特に若い世代に選ばれ、住みたくなる魅力あるまちづくりに取り組んでいく。

東神楽町地方版総合戦略重点項目検証シート

			数値目標			
重点項目	背景	数値目標 (A)	達成値 (B)	達成率 B/A	重点項目の評価	総合判定
安定した雇用の創出	近年増加傾向にあり、今後も地場で活躍する 企業を支援する取組を通じて、経済活動の活性化や雇用の増大につなげる必要がある。 一方、人口と従業者の伸び率について比較 した場合、近年は人口の伸びに対して、従業 者の伸びが鈍化している。これは東神楽町に 転入したものの、仕事については旭川市をは じめとする近隣自治体に通勤している住民が 増加しているものと考える。今後は、人口増加 の傾向を一年でも長く維持・継続するととも	(1)東神楽町内 の従業者数 3,226人→3,500 人	3,287	93.9%	数値目標の従業者数に 数値目標のでは、目標値には、 をでしたものの、標値には、 を変えまするとはできます。 またではないまではいまではは、 まにのはませいでは、 を変えませい。 はいいまでは、 を変えませい。 はいいまでは、 はいないまでは、 はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	
	に、東神楽町内における企業活動を活性化 し、東神楽町で働く住民を増加させることが課題として考えられる。	(2)東神楽町内 の就業者数 4,460人→4,900 人	4,999	102.0%	で町内に転入したものの の、仕事は旭川市やいる は地にしまがる。 はかる。 はかる。 はかる。 ない。 ないる。 ないる。 ないる。 ないる。 ないる。 ないる。 ないる。 ないる。 ないる。 ないる。 ない。 ない。 ないる。 ないる。 ないる。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない	A
		(3)新規の創業 事業者数3か所 増(平成32年度 まで)	5	166.7%	についても人材の不足により、求める人材の不確保が難しい状況にあることから、今後は、さらなる地場産業の育成と、新規創業への支援に取り組み、仕事を希望する者が、できる限り町内で働けるがよりを進めることが必要である。	
						計画どおり 進んだ

			数値目標			
重点項目	背景	数値目標 (A)	達成値 (B)	達成率 B/A	重点項目の評価	総合判定
い人の流れを作る	市と協力して推進する。 また、東神楽町のコミュニティ・アイデンティ ティ(CI)として掲げる「花のまち」を改めて内 外にPRすることを考え、東神楽町が運営・管 理している育苗センターの活性化を核として、 ドライブ等で訪れた方々が東神楽町の景観等	(1)東神楽町へ の観光入込客 数 296,800人→ 326,000人	265,686	81.5%	数値目標の観光入込 を を を を を を を を を を を を を	
	の良さを実感できる環境整備を進めることにより交流人口の増加を目指す。 このような交流人口を増やす取組を継続することで、すでに東神楽町に在住する住民の満足度を高めることと並行して、移住・転入を希望・検討する方に対して、東神楽町が常に選択肢の一つして検討される施策の展開を進める。	(2)東神楽町へ の年間転入者 数 436人→479人	421	87.9%	に転じる兆しもあったが、 宅地の販売が好調だったが ことから予定よ者数早早く完ま が鈍化し、社会減との伸が が鈍化し、は出生減少に転じたし、 でもいたはいないででである。 との世が見いであるが、 はいたが、 はいたが、 はいたが、 はいたが、 はいが見ばは になりとでいるが、 はいたが、 はいたが、 はいたが、 はいたのと はいたののと にはなののと にはなののと にはなののと にはなののと にはなののと にはなののと にはなののと	С
		(3)年間転出者 数 329人→320人	387	82.7%	に、花神楽や森林公園の 魅力を一層高めるととも に、空港や花の駅など東 神楽の特性を生かした施 設を活用し、さらに整備、 拡充することで、交流人 口の増加を図り人の流れ を促進させる。	
		(4)自然増の実 現(平成32年度 まで)	-	平成30年 出生 66人 死亡 96人 自然増 -30人		
						少し進んだ

東神楽町地方版総合戦略重点項目検証シート

			数値目標			
重点項目	背景	数値目標 (A)	達成値 (B)	達成率 B/A	重点項目の評価	総合判定
守るとともに、地域間連携を図る	地方版総合戦略の策定にあたり、東神楽町では「東神楽町まち・ひと・しごと創生本部総合戦略策定委員会」を組織し、産官学金労言といった多様な主体から委員をお招きし、地方版総合戦略の策定に向けた意見を聴取した。その中では今後移住・転入を希望する人たっの施策だけではなく、すでに東神楽町にような職に対する意見が多く出された。これを受けて東神楽町では、地域に愛着を持って住まわれている方が今後も継続して組み、今お住まいの住民満足度の向上に結び付けることが今後の移住・転入を結果的にのび込むことにつながると整理し、地域住民の	(1)東神楽町に おける30歳以上 の人口 7,103人→7,100 人の維持	7,423	104.5% ©	数値目標の30歳以上の 人目標を出る。 人目標を出る。 人間標を上は、早くとなっ が要となっ があまりでではいる。 でではいる。 でではいれていた。 でではいる。 ででにはいた。 ででにはいた。 ででにはいた。 ででにはいた。 ででにはいた。 ででにいるができる。 ででにいるができる。 ででにいるができる。 ででにいるができる。 ででにいるができる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はい	
	び込むことに りながると 登壁し、地域は民の健康や活躍の場の創出に向けた取組を進める。 また、既に取り組んでいる「君の椅子」プロジェクト等の地域連携の輪を生かし、東神楽町の知名度向上についても取り組むこととする。	(2)東神楽町へ の観光入込客 数 296,800人→ 326,000人	265,686	81.5% C	推進していくとともに、高齢化や仕事における人材不足にも対応するため、アクティブシニアの活躍の場を創出する。 また、引き続き、特に若	
						計画どおり 進んだ

							重要	業績評価指	標(KPI)					実績		
重点項目	政策パッ ケージ 	施策群	具体の事業 【PLAN】	項目	指標目標 (X)	H26 基準値	H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	達成値 (Y)	達成率 Y/X(%)	関係する事業名	(具体的な取組み) 【DO】	効果検証 【CHECK】	今後の方針 【ACTION】
安定した 雇用の創 出	な人材活 用ネット ワーク No.1のま ち」の実 現	ア:東神楽町を外から応援する人たちをネットワーク化 東神楽町の特産である農作物や家具に発 をこれまで以上に発信PRするため、新し、東神楽町の カし、東神楽町の知名度を向上させる。	①東神楽町産野菜レストランミックス【産振】		平成31 (2019)年度 までに5店舗 と連携	0	0	3	2	1	6	120.0% ©	・東神楽ブランド創出産 業支援事業(地方創生 推進交付金[国]) 【農業プロデューサー】	 ・東神楽産農産物を使用した、町内飲食店数の増加。 1 旭川ラーメン(キタノカオリ)[H28)] 2 OMP(東神楽野菜)[H28)] 3 Clover(田村牧場牛乳)[H28)] 4 手打ちそばまる(吉原農場)[H29] 5アイチュランド(長沼アイスクリーム)[H29] 6シゲバル[H30] ※H31.3時点 ・農業プロデューサー脇坂氏による「北海道東神楽町アスパラナイトin東京」を開催し、鮮度の高い野菜を提供することにより特産品のPRを行った。 	・農業プロデュー サー脇坂氏による 「アスパラナイトin東 京」をはじめ、東京や 札幌でもマルシェを 開催し、東神楽産の 農産物を広くPRする ことができた。	・引き続き、大都市圏 でのPRを継続し、東 神楽の農産物の美味 しさや魅力を伝え、 ファンを増やし定着さ せていく。
			②東神楽町プロモーター制度【産振】	②任命した プロモーター の人数	平成31 (2019)年度 までに3名を 委嘱	0	3	0	0	1	4	133.3% ©	域活性化・地域住民生 活等緊急支援交付金 (タイプⅡ)[国]) ○青木昭夫氏 ・東神楽ブランド創出産	18	定の成果が達成され	・脇坂真吏氏(農業プロデューサー)を引き続き任命し、農業分野を含む地域商社の仕組みづくりへと深化させていく
		イ:東神楽町で活躍する人を応援するプロシェクト 東神楽町内に居住れいら東神楽町内に居住れいら東神楽町内に居住れいら東しての「人材」を記しての「人が、こ呼とは違う「人を民力をは違う」や「住民が自発的に活動できる	導入【まち、産振】	じて東神楽	平成31 (2019)年度 までに2世帯	0	0	1	1	1	3	150.0% ©	・地域おこし協力隊推 進事業[単]	・小島茂(産振課)H28-30⇒定住し起業 ・松本友里(地域の元気づくり課)H29-31 ・滝澤ゆかり(まち課)H30-H33 ・R1.6現在募集中	・当町においては、募 集地域の要件が募集 定されるため、らも に苦慮しながらもの とことは はの はの はの はの はの はの はの はの はの はの はの はの はの	・今後も協力隊を受け 入れ、各事業で活躍 継続 していただき町の活性 化や定住促進へと繋 げていく。
		取組」等人口減少社 会を生き抜くための取 組について支援を行 う。 基幹産業である農業 の後継者育成、女性 農業者の経営改革	②アクティブ・シニアの活躍の場の創造【元気】	②アクティ ブ・シニアの ネットワーク 形成に向け たイベント	平成31 (2019)年度 までに5回開 催	1	1	1	5	4	. 11			 ・アクティブシニアの集い ・ノルディックウォーキング教室 ・体がかたくてもヨガ教室 ・やさしいエアロビクス教室 ・大人の水中運動教室 ・ほぼイスに座ったママのんびり運動教室 	・アクティブク形では、アクティブク形動・アクティブク形動・アクティブク形動・アクティブの参りと、一大学をは、アクをも、一大学をは、アクをは、アクをは、アクをは、アクをは、アクをは、アクをは、アクをは、アク	・引き続き参加者の掘り起こしを継続して行い、今後は活躍の場づくりとネットワークの 形成へ繋げていく。
			③新規就農支援【産 振】	③新規就農 者の数	平成31 (2019)年度 までに2名	0	0	2	0	0	1	50.0% 🔾	·中山間地域等直接支 払制度【住宅家賃助 成】 (国)	・2名就農があったものの、1名は転出 し、現在、1名が町内の法人で就農して いる。	・現在、1名が法人で 就農中。	・現在は、新規就農希望者があった場合、個別に受け入れ先を探しているため、受け入れ体制とマッチングさせる仕組みが必要。

							重要	業績評価指	標(KPI)					実績			
重点項目	政策/	パッ ジー施策群	具体の事業 【PLAN】	項目	指標目標 (X)	H26 基準値	H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	達成値 (Y)	達成率 Y/X(%)	関係する事業名	(具体的な取組み) 【DO】	効果検証 【CHECK】	() ()	う後の方針 ACTION】
			④東神楽農業女子プロ ジェクト【産振】	④プロジェクトを通じて組織化される グループの数	平成31 (2019)年度 までに1グ ループ	0	0	1	0	0	1	100.0%	·中山間地域等直接支 払制度[国]【活動費助 成】	・担い手女性農業者で構成される「ふたば」が設立され、勉強会やイベント、野菜の試験栽培に取り組むなど活動を実施。また、生産した野菜を地元スーパーで販売し、担い手女性グループとして積極的な活動を行っている。	・「ふたば」が設立され、経過年数ととも に、女性農業者の活 動が定着してきてい る。	継続	・今後も引き続き支援していく。
			⑤6次産業化支援【産振】	⑤支援を通 じて組織化さ れるグルー プの数	平成31 (2019)年度 までに1グ ループ	0	0	O	1	1	2	200.0%		・八百屋HALマーケットの設立(H29)・田んぼカフェの開店(H30)	・農村滞在型余暇活動機能整備計画書の策定により、市街 化調整区域内での農家による営利活動の幅が広がった。	継続	・引き続き、グリーン ツーリズムを推進して いく
			⑥企業拡大(海外への 販路拡大等)の支援 【産振】	⑥企業拡大 (海外への販 路拡大等)に 対して取り組 む事業者数	平成31 (2019)年度 までに4事業 者	0	0	2	. 1	1	2	50.0%	·地方加速化交付金 [国] 平成29年2月 JA東神楽(台湾) 匠工芸(台湾) ·地方創生推進交付金 [国]平成29年11月 JA東神楽(台湾) ·地方創生推進交付金 [国]平成30年11月 JA東神楽(台湾)	 JA東神楽(台湾)	・台湾への米の出荷 等、新たな販路が開 拓され、一定の成果 が得られた。	1. 佐畑 7 1/2 1	・事業は予定通り終了するものの、米等の輸出は引き続き継続していく。
			⑦事業承継支援【産振】		平成31 (2019)年度 までに1事業	0	0	C	1	0	1	100.0%	[1市3町による広域]	・東神楽町は、旭川市、鷹栖町、東川町と連携して「旭川市を中心とした道北地域創業支援事業計画(計画期間:平成26~30年度)」を策定している。 産業振興課にて相談を受けた場合には、創業相談窓口として旭川産業創造プラザを紹介している。	和職を有りる性談域 関へ引き継ぐことが	継続	・当町は、中小企業が多く事業主の高齢化も進展していることから、引き続き近隣市町と連携し、事業承継を推進していく。
				⑧統一ブランドデザインを利用して流通する方 品アイテム数	(2019)年度 までに30アイ	0	0	1	9	7	17	56.7%	ザイン制作事業(地方) 創生加速化交付金	・東神楽ブランドを象徴するロゴマークを制作し、特産品や名産品を「東神楽の種と実セレクト」としてブランド化した。・新商品お披露目会やHP、SNSなどを活用し種と実セレクトの情報発信やクラウドファンディング、食材を使った東神楽フェアを全国で展開した。	レクト」を立ち上げ、 HP、SNS、広報誌な	継続	・種と実ブランドの構築に向けて更なる知名度の向上と推進を図るため、PR活動を継続する。また、消費者の購入先が限ら路とから、販路とから、地大し強化させる必要がある。

	_,,,,						重要	業績評価指	票(KPI)					実績		
重点項目	政策パッ ケージ	施策群	具体の事業 【PLAN】	項目	指標目標 (X)	H26 基準値	H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	達成値 (Y)	達成率 Y/X(%)	関係する事業名	(具体的な取組み) 【DO】	効果検証 【CHECK】	今後の方針 【ACTION】
2. やかれの人を作る	まちNo.1]	ア・京で、東テ特興ではい発で住を興が町がよいす。 東すり 神子化すの境域取歴自の 一名のいてがある。 かって、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	①オープンガーデン開設に向けた支援【まち、建設】	①「はなの駅」の開設数	平成31 (2019)年度 までに10駅 を開設	3	0	0	1	0	1	10.0% 🛆	・花のまちづくり推進事 業[単] ・育苗センター維持管 理費[単]	・町営育苗センター内に、平成29年5月15日はなの駅(販売部)が先行オープン。8月26日に実施した「町長がバスガイドツアー」に合わせてオープンガーデンを共用開始。10月10日に屋内設備(販売、休憩、見学)の準備が整い、販売部門を引越し。冬季対応の施設となった。・育苗センターの臨時職員(5名)が、平成29年8月4日にフラワーマスター認定(北海道知事)を受けた。・案内看板については、営業看板に類するため、公共施設案内看板として仮設した。・・花苗等の販売 14,042点 1,062,950円※H29.05.15~09.30	員がフラワーマスターの資格を取ったことで、町民からは、花に関する質問への回答のレベルが高くなったと評価されている。 ・町内視察案内の1施設となり、「町長が	・花の駅活動の継続 ・H31にオープンガー デンを行う者を見し、町内オープン募集し、町内オープンを開かまでである。・フラワーマスターの資格を取る育田である増やするでは対おこし協力隊合む)
			②ガーデナー育成事業 【まち】	②講座受講 者数	平成28年3 月までに延 ベ人数100人	0	185	50	0	30	265	185.0%	・花のまちづくり講演会 (平成26年度地域活性 化・地域住民生活等緊 急支援交付金[国]) ・町制施行50周年記念 事業(H28いきいきふる さと推進交付金[その 他])	横木のゆみ 魅力のる化塩 スパ 講演 会(H27)	・講師及び講演内容により多くの参加を集客することがへき、ガーデニングの関心の高さがのまた、内容も、大対象から、高齢者の健康づくりに関するものまで幅広い世代へ対応できた。	・花のまちづくり講演 会開催による町民の スキルアップを図る。 ・フラワーマスター認 定講習へ職員を派遣 レスキルアップへと繋 げる。
		イ:美しい景観を活か したまちづくり 美しい景観を後世に 残すための取組につ いて、今できることを	①花のまち景観計画の 策定【まち、建設】		平成27 (2015)年度 までに策定 の上、公表	0	1	0	_	_	1	100.0% ③		・平成27年度策定済み	・花のまち景観づくり 条例と連動して、当 町の景観をいかした まちづくりを進めるう えで、明確な指針が 完成した。	変更して継続 連用
		着実に進めていきます。 す。	②花のまち景観づくり 条例の策定【まち】	までに策定	平成27 (2015)年度 までに策定 の上、施行	0	1	0	_	_	1	100.0%		・平成27年度施行済み	・花のまち景観づくり 計画と連動して、当 町の景観をいかした まちづくりを進めるう えで、明確な指針が 完成した。	変更して継続 運用

							重要	業績評価指	標(KPI)					実績			
重点項目	政策パッ ケージ	施策群	具体の事業 【PLAN】	項目	指標目標 (X)	H26 基準値	H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	達成値 (Y)	達成率 Y/X(%)	関係する事業名	、 (具体的な取組み) 【DO】	効果検証 【CHECK】		う後の方針 ACTION】
2. 地方 へい人の い人を作る	ミュニティ No.1のま	ア:東神る化 東する化 東する化 東する化 東ボーク エー・ア・大き で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	①まちの駅【まち】	①開設する 「まちの駅」 の数	平成31 (2019)年度 までに3駅を 開設	0	0	0	2	0	2	66.70/	・東聖ひじり野地区コミュニティ拠点施設整備事業(地方創生拠点整備交付金[国]) ・志比内地区公民館整備事業[辺地債]	・平成28年度に地方創生拠点整備交付金施設整備計画を策定し、平成29年度事業着手の後、平成30年4月に東聖ひじり野地区コミュニティ拠点施設が完成し運用を開始。 ・行政事務所を拡充し、新たに取り扱う行政事務を増やした。また、同施設内に簡易郵便局を併設した。 ・平成30年1月に志比内公民館が新築により開館し運用を開始。	・施設整備事業により利用者が増加し等の利用者が増加し等の利用者が増加し等の利用を開始が増加しまたの利力が、一定の対象をである。 ・をはいるののでは、がいるののでは、がいるのでは、がいるのでは、がいるのでは、からいるが、はいるのでは、ないのでは、ないのでは、はのでは、はのでは、はのでは、といるのでは、といるのでは、といるのでは、は、はいるのでは、はいるのでは、はいるのでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	継続	・現在、計画している複合施設整備事業において、住民が集えるコミュニティ交流スペースの整備を検討する。
		についても積極的なP R活動を通じ、交流人 口の拡大に向けた取 組を推進します。		②「はなの駅」の開設数(再掲)	平成31 (2019)年度 までに10駅 を開設(再 掲)	3	0	0	1	0	1		・花のまちづくり推進事業[単] ・育苗センター維持管理費[単]	休憩、見学)の準備が整い、販売部門を引越し。冬季対応の施設となった。 ・育苗センターの臨時職員(5名)が、平成29年8月4日にフラワーマスター認定 (北海道知事)を受けた。 ・案内看板については、営業看板に類するため、公共施設案内看板として仮設した。 ・花苗等の販売 14,042点 1,062,950円 ※H29.05.15~09.30	花に関する質問への 回答のレベルが高く なったと評価されている。 ・町内視察案内の1 施設となり、「町長が バスガイドツアー」を はじめ、町内の幼保 および、		・花の駅活動の継続 ・H31にオープンガーデンを行う者を引し、町内プチープを開力である。・フラワーマス育田ではありを取る増加域おこし、近日では、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学の
			③そらの駅(上川中部 観光圏のPR強化)【産 振、まち、建設】	は、連携する旭川市との協議の上、	具体のKPI にで 連市で は で は で は で は と の で は と の は る は さ の は る は る は る は る の は る は る り る り る り る り る と る と る と る と る と る と	0	0	0	0	0	0	0.0% 🛆		・近隣市町や他の計画(空港民営化予定を含む。)との関連もあることから未着手であるが、これらの動向を注視しつつ、 庁内にて検討してきた。	・旭川空港の民間委託などが予定されている中で、「道内空港ネットワーク」や「広	継続	・地域高規格道路の整備などと関連し、具体的なことは決まっていないが、関係機関と連携を密にしながら検討していく。

						重要業績	漬評価指	票(KPI)					実績			
重点項目が失	パッ -ジ 施策群	具体の事業 【PLAN】	項目	指標目標 (X)	H26 基準値	H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	達成値 (Y)	達成率 Y/X(%)	関係する事業名	、 (具体的な取組み) 【DO】	効果検証 【CHECK】		う後の方針 ACTION】
		④地域コミュニティ組織の活性化【元気】	④公民館等 が主体事 り組む支援	平成31 (2019)年度 までに5事業	2	0	2	3	0	5	100.0%	・地域活性化応援事業 [単]ほか	・東聖地区公民館「ふれあいサロン」 ・中央地区公民館「ナイタークロスカント リー大会」、「みんな集まれCAFE事業」 ・忠栄地区公民館「忠栄地区盆踊り事 業」 ・志比内地区公民館「志比内地区盆踊り 事業」	・ お応している。 とのできないのである。 とのである。 とのであるのである。 とのである。 とのののののののののののののののののののののののののののののののののののの	継続	・今後もコミュニティの活性化、維持のため、継続した支援を実施していく(財政支援、運営支援)。
		⑤森林公園リニューア ル【産振】	⑤森林公園 利用者数	平成31 (2019)年度 までに31,000 人(うち町民 3,000人)/ 年	26,487	24,906	29,496	31,630	28,793	28,793	92.9%	·東神楽森林公園整備 事業[辺地債]]	・左記の起債を活用して森林公園リニューアル事業の推進を図る。 ・平成29年度は、園路・キャンプゾーンの実施設計、園路・駐車場の整備や間伐工事を実施した。	・辺地債等の有利な財源を活用しながら、計画どおり進捗している。	継続	・町全体の施設計画 の位置づけを踏まえ、 有利な財源を活用し つつ、中長期的に進 めていく。
		⑥国際観光プロモー ション事業【産振、まち】	⑥アジアからの観光客 入込数	4万人(平成 24(2012)年 度)→8万人 (平成27 (2015)年度)	40,360	192,616	95,236	21,302	30,894	192,616	240.8%	・北北海道に貢献する 稼ぐ旭川空港構築プロ ジェクト(地方創生加速 化交付金[国])	・平成29年2月に台湾にて合計10社の旅 行会社を訪問し、PR活動を実施した。	・旅、多スに行るたのがそサや必るは、 ・旅、多スターでは、 ・旅、多スターでは、 ・旅、を社でのより、ででは、 を社で、のより、ででは、 を対して、 がでいたが、 がでいたが、 がでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	継続	・旭川空港国際線ター ミナルも完成したこと から、引き続き、ウ の観光ガイドブック 「達人天書」に花神 楽・森林公園の記事 を掲載するなどPRを 実施していく。
	イ:拠点をつなぐ交通 手段づくり アで述べたベースをつ なぐ役割を担う公共交 通機関の効率性を高 め、利用しやすいもの となるような工夫を 行っていきます。	①住民ニーズに合わせ た新しい交通体系の構 築【まち、建設】	①町営バス の空バス(利 用者ゼロ)運 行の比率	34.5%(平成 26(2014)年 度)→0% (平成31 (2019)年度)	34.5		37.0	33.3	30	30	30.0%	・デマンドバス試験運行 [単]	・平成27年11月から平成28年1月まで、3 路線でデマンドの試験運行を実施した。	・事後アンケート調査及び聞き取り調査を実施した結果、不ど前を取りの運行を希望する者が多数であったことからデマンド運行の実施を見送ることとした。	事業の中止	・引き続き地域の実情に合った先進事例の調査研究を継続する。

							重要	業績評価指	標(KPI)					実績			
重点項目	政策パッ ケージ 	施策群	具体の事業 【PLAN】	項目	指標目標 (X)	H26 基準値	H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	達成値 (Y)	達成率 Y/X(%)	関係する事業名	美順 (具体的な取組み) 【DO】	効果検証 【CHECK】		う後の方針 ACTION】
3. 安心 安心 をもし をもし 域連 図る	続けたい まちNo.1」 の実現	ア:東神楽町を外から応援する人たちをネットワーク化 現在東神楽町に居住している人が「今後も東神楽町に住み続けたい」と思えること、こ	①空き室がいわの敷供	①制度を活 用して、契約 に至る件数	(2019)年度	0	0	0	() 31	31	620.0% ©		川支部と連携し、町ホームページにIRI	・最新の不動産情報へ容易にアクセスできるため利用しやすく、物件探索に役立っていると考えられる。	継続	・より使いやすくなるよ う改良していきたい。
		れから移住を考えている人が「東神楽町に住んでみたい」と思うような取組を展開し、人口の維持・増加に結び付けます。	②定住促進型リフォーム支援【建設】	②制度を活 用してリ フォーム行う 家屋件数	平成31 (2019)年度 までに5軒	0	0	0	C) 1	1	20.0% 🛆		・平成29年度、既存住宅耐震改造費補助金(450千円)予算化済み。耐震化に特化した項目であり、現状では運用なし。 ・平成30年度以降において、未来につなげる「住まいの輪」促進事業として実施。	・定住をはまするとはではまするとはでは、まいのでは、まいのでは、まいのでは、まれのでは、では、ないでは、では、ないでは、では、ないでは、では、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが	変更して継続	・中古住宅等を購入し居住するとき、リフォームを伴わないケースが多いことから、リフォームに限定せずに定住が図られるさまざまな取組みが対象となるように、内容を修正する。
		イ:いつまでも健康で 住み続けられる環境 づくり 子どもたちの健康管 理だけではなく、家族 みんなが健康に過ご せる環境づくりを構築 するための仕組みづく りを強化します。			平成31 (2019)年度 までに 60.0%	41.2	45.7	43.6	52.1	50.4	50.4	84.0%	・健康食育タウン事業 (地方創生加速化交付 金事業[国])	・健幸ポイント付与項目に健康診断の提出を設定。本事業と未受診者対策の効果で受診率が上昇している。	・個々への受診勧奨 及び本事業の効果で 受診率が向上した が、40代、50代の働 き盛り世代の受診者 数は伸び悩んでいる おり、国の目標値は 達成できていない。	変更して継続	・引き続き、町民へ健 診や健康づくりの必要 性について周知徹底 していく。 ・評価指標を変更し、 今後も、新規会員の 獲得及び、会員の 健康の維持増進に繋が る事業を実施する。
			①スーパー食育タウン 【ふくし 】	①特定健診 受診率の目 標値	身体の現在 身体値化の でる でる を可収 が等す実行 のは のでに ので ので ので のので のので のの のので のの のの	47.3	24.7	24.3	31	結果待ち	31	62.0%	(地方創生加速化交付	・特定健診受診後も継続してフォローが 必要な受診者に対して、必要な支援がで きるようなシステムを構築した。	・特定健診保健指導の対象者になる方で、経年的に対象になる方は、様々な事情で改善が難しいケースが多く支援の難しさを感じる。	変更して継続	・評価指標を変更し、 今後も、新規会員の 獲得及び、会員の健 康の維持増進に繋が る事業を実施する。
					入院1人当 たり医療: 平成 31(2019) 国 度までに率と 同等にする	0	6.1	2.1	14.4	↓ 結果待ち	14.4	- Δ	•保健指導事業[単]	・国の伸び率(H29年度)が2.8%であるため、依然として国の基準と差がある。H 30年度から本格実施している保険者努力支援制度の評価指標にて重症化予防の取り組みへの配点が高くなった。	計が終了していない		・重症化予防を ・重症化予院で ・重症とが入療費の を取人伸の を放棄療療で が、対験を が、対験を が、対象を が、対象を が、対象を が、対象を が、対象を が、で を が、で を で で で で の で の に の に の に の の に の の が、 の の に が、 の の が、 の を を が、 の で の に で の に で の に で の に で の に で の に の の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の の に の に の に の の に の の に の の に の の に の の の に の の の の に の の の の の の の の の の の の の

No.1政策パッケージ「住み続けたいまちNo.1」

		.0						重要	業績評価指	票(KPI)					実績	AL BLAST		\
重点項	国 政策パーク	Ny ジ 施策群	<u> </u>	具体の事業 【PLAN】	項目	指標目標 (X)	H26 基準値	H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	達成値 (Y)	達成率 Y/X(%)	関係する事業名	(具体的な取組み) 【DO】	効果検証 【CHECK】		う後の方針 ACTION】
				「健診+若い世代 健診【拡充・ふく し】	②学童健診 受診率の目 標	平成31 (2019)年度 までに40%	14.7	13.6	34.8	25.7	34.7	34.7	86.8%	•各種健康診査事業[単]	童健診と合わせてピロり菌検査を実施。 初年度のため中学2・3年生を対象としたので、中学生の対象人数が増加と小学生の学童健診受診率が下がったため、前年度より受診率が下がった。本来の対象である中学2年生の受診率は前	・放課後の学校での 健診実施や中学生を 対象としたピロリ菌検 査の同時実施等によ り、受診率は徐々に 上がってきたが、目 標値は達成できてい ない。	継続	・今後も周知や内容について検討を重ねながら、学童健診を継続して実施する。
					②若い世代 の親の検診	国保若年者 (30代)の特 定健診受診 率の目標:平 成31(2019) 年度までに 35%	14	17	17	16.1	18.8	18.8	53.7%		・子供の健診など会える機会を有効に活 用し、受診勧奨を行っているものの、例 年10%台の受診率で推移している。	・各地区担当から受診勧奨を実施しているが、少しずつ受診率は上がってきているものの、目標は達成できていない。	継続	・今後も周知や受診勧 奨を積極的に行い、 若年者の健康の保 持・増進につながる事 業を実施する。

			-				重要	業績評価指標	₹(KPI)					実績	= =	
重点項目	政策パッ ケージ	施策群	具体の事業 【PLAN】	項目	指標目標 (X)	H26 基準値	H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	達成値 (Y)	達成率 Y/X(%)	関係する事業名	、 (具体的な取組み) 【DO】	効果検証 【CHECK】	今後の方針 【ACTION】
3. 安心 な暮らと をもに、地 域図る	てNo.1のまち」の	ア:東神楽町を外から 応援する人たちをネットワーク化 生活様式の多様化に 伴い、子育てに対する 要望も多様化している 要望も多様ではこれ までにも子育て支援 については重点的に	①妊娠期からの切れ目 のない支援の充実【ふく し】	による継続	平成31 (2019)年度 までに80%	0	0	100	100	100	100	125.0% ©	•母子保健相談支援事 業[単]	・妊婦及び乳幼児(0~3歳)までの状況 未把握数:0件 ・乳幼児期の虐待死亡件数:1件 (母が子を連れて自死)	・妊婦、乳児の全戸 訪問や乳幼児健診を 実施し、未把握数は0 件となっているが、母 子の自死が発生し、 個々の支援の一層 の充実が課題となっ ている。	・関係機関と情報共 有・連携を取りなが ら、支援を続けてい く。自死の件について は、他機関を交え、事 例検討や支援の振り 返りを行っていく。
		取がいりけい取育けえ実までるにして、 はめのでいますにはのできるものできるものできるものでは、 て安心のは、 で安心のは、 で安心のは、 で安心のは、 で安心のは、 で安心のは、 で安心のでは、 で安心のでは、 でないないに、 にでは、 でないがでは、 でいるでは、 でいるではないるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるではないるでは、 でいるではないるではない。 でいるではないるではない。 でいるではないるではない。 でいるではないるではない。 でいるではないるではない。 でいるではないるではない。 でいるではない。 でいるではない。 でいるではない。 でいるではない。 でいるではないるではない。 でいるではないるではない。 でいるではないる。 でいる。 でいるではないる。 でいるのはない。 でいるのはないる。 でいるのはない。 でいるのはない。 でいるのは、 でいるのは、 でいるのはない。 でいるのはないる。 でいるのはない。 でいるのはないる。 でいるのはない。 でいるのはない。 でいるのはないる。 でいるのはない。 でいるのはないる。 でいるのはないる。 でいるのはない。 でいるのはないる。 でいるのはないる。 でいるのはな		②父子手帳 (にこ父パス ポート: 仮 称) の交付率	(2019)年度	0	0	11.8	72.3	55.4	55.4	184.7% ©	"好丁休姓怕談又拨尹	・母子手帳交付時、父子手帳の交付を希望する母親に交付している。また、父親が一緒に来庁するとほとんどが希望される。	・妊娠届出の65%が 経産婦で、大のというでは、 長に交付さるで、 大ので、 大ので、 大ので、 大ので、 大ので、 大ので、 大ので、 大の	・今後も初産婦や転入の方を中心に、父子手帳の交付を続ける。受動喫煙や、妊産婦のメンタルヘルスについても情報提供できるよう活用していく。
		組みます。	②イクメン支援【ふくし 】	②にこ父サロンの開催	平成31 (2019)年度までに年3回	0	1	1	2	2	2	66.7%	·母子保健相談支援事 業[単]	・これまで、子どもの健全な発育、母親の負担軽減と就労支援、夫婦間のパートナーシップの醸成、父親自身のワークライフ・バランスの実現などにより、社会全般の男女共同参画意識の推進に寄与すると共に、労働力の創造や少子化が積につながることを目的として、男性の積極的な育児参加を促すための事業『にこ父サロン』を開催した。平成30年度は、『親子写真教室』とこれっとまつりにおける『にこ父タイム』で創作活動を実施し、それぞれ4組16人、24組81人の参加があった。	でしか体験できない魅力あるプログラムの提供や情報発信	・これまで「イクメン」」普及が、まで「イクメン」で育定を見てででできる男性像はているを見れている。本事している。

and fate o						重要	業績評価指	標(KPI)					実績	41 B 14 5-7		A (// a - 1 A)
重点項目 政策パッ ケージ	施策群	具体の事業 【PLAN】	項目	指標目標 (X)	H26 基準値	H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	達成値 (Y)	達成率 Y/X(%)	関係する事業名	(具体的な取組み) 【DO】	効果検証 【CHECK】	[今後の方針 「ACTION】
		③子育て支援の担い手 確保【こども】	③子育て支 援員の登録 者数	平成31 (2019)年度 までに10人	0	0	3	5	4	. 12	120.0%		・旭川市及び周辺自治体との連携事業として交付金を活用して事業を年2回実施。 町民の研修受講者は実績のとおりで、平成30年度には目標値を上回る12人に達した。 ●H28 地域型保育:2、放課後児童:1 ●H29 地域型保育:2、一時預かり事業:1、放課後児童:2 ●H30 地域型保育:2、放課後児童:1	ているが、推薦を受けて研修を受講した 者以外の雇用にまで	継続	・これまでどおり、支援員の養成を続けていく一方で、町として保育等の現場の声を聞きながら研修修了者の採用等について検討する必要がある。
		④乳幼児の保育の受け皿拡大【こども】	④少人数の 「保育の場」 の設置数	平成31 (2019)年度 までに1か所	0	0	1	0	1	2	200.0%	· 小規模保育事業[補] · 保育所等整備·運営 事業者募集事業	の課題となっている。 そこで、平成28年度に東聖ひじり野地区地域 世代交流センター内に東聖小規模保育開設。また、中央市街地区においては、新町団地の大規模整備にあたり、保育サービ募集 行う事業所の整備・運営を担う事業者のうち地域 を行い、平成30年度から利用定員のうち地域 を行い、平成30年度から利用定員のうち地域 営を開始している。 さらに、保育ニーズの増加にともない、平成 31年度より東聖小規模保育園の定員を増育 すとともに、同施設内にぱれっと小規模保育 園の開設を行い、待機児童の解消に寄り でいる。 あわせて、保育士の人材不足を解消し安定 的な保育を提供するために、保育士の り上げ等の処遇改善を実施した。 ●東聖小規模保育園対象:1~2歳児	つ度名の受がの況あ町育り育開に皿育対に、成3年ぞと関係で年のでは、が31年では、のでは、が31年では、が31年では、が31年では、が31年では、な場では、な場では、な場では、な場では、な場では、な場では、な場では、なりでは、では、なりでは、では、なりでは、なりでは、なりでは、なりでは、な	継続	・今や等は予にに認難育いた園接楽の急る育をはい受士しある、場合とは、はいる、大学に益想のでは、大学に、大学には、大学に、大学に、大学に、大学に、大学に、大学に、大学に、大学に、大学に、大学に

No.1政策パッケージ「子育てNo.1のまち」

	 						重要	業績評価指	票(KPI)					実績	41 B 14 5-7		- // a - t A l
重点項	対策パッ ケージ	施策群	具体の事業 【PLAN】	項目	指標目標 (X)	H26 基準値	H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	達成値 (Y)	達成率 Y/X(%)	関係する事業名	(具体的な取組み) 【DO】	効果検証 【CHECK】		う後の方針 ACTION】
			⑤学童健診+若い世 代の親も健診【ふくし】 (再掲)	⑤学童健診 受診率の目 標	平成31 (2019)年度 までに40%	14.7	13.6	34.8	25.7	34.7	34.7	86.8%	•各種健康診査事業[単	童健診と合わせてピロり菌検査を実施。 初年度のため中学2・3年生を対象としたので、中学生の対象人数が増加と小学生の学童健診受診率が下がったため、前年度より受診率が下がった。本来の対象である中学2年生の受診率は前	・放課後の学校での 健診実施や中学生を 対象としたピロリ菌検 査の同時実施等によ り、受診率は徐々に 上がってきたが、目 標値は達成できてい ない。	継続	・今後も周知や内容について検討を重ねながら、学童健診を継続して実施する。
				⑤若い世代 の親の検診	国保若年者 (30代)の特 定健診受診 率の目標:平 成31(2019) 年度までに 35%	14	17	17	16.1	9.3	9.3	48.6%		・子供の健診など会える機会を有効に活用し、受診勧奨を行っているものの、例 年10%台の受診率で推移している。	・各地区担当から受診勧奨を実施しているが、少しずつ受診率は上がってきているものの、目標は達成できていない。	継続	・今後も周知や受診勧 奨を積極的に行い、 若年者の健康の保 持・増進につながる事 業を実施する。

							重要	業績評価指	票(KPI)					宇结			
重点項目	政策パッ ケージ 	施策群	具体の事業 【PLAN】	項目	指標目標 (X)	H26 基準値	H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	達成値 (Y)	達成率 Y/X(%)	関係する事業名	実績 (具体的な取組み) 【DO】	効果検証 【CHECK】	1	今後の方針 【ACTION】
		イ:地域で行う教育 力の向上 学校も東の現場には を 育の現場でも で 行り、 で を も 東の で を は と を り に は と を り に と り に り に り に り に り に り に り に り に り	【孤允・教育】	①キャリア教 育に資する 事業の開催	平成31 (2019)年度 までに延べ 10回	3	3	3	3	2	11	110.0% ©	・JFAこころのプロジェク ト「夢の教室」事業[単]	・小学校5年生を対象に様々なジャンル のアスリートによる実技や講話を開催。	・夢を持つことの大切さや叶えるまでの過程など、子ども達へのキャリア教育として効果を上げている。・「JAFこころのプロジェクト」事業と連携し、計画的に事業を進めることができた。	継続	・今年度は、東神楽小学校、志比内小学校 の2校合同及び東聖 小学校での実施を7 月3・4日に開催。
		留めず、地域をでは、地域を実施し、「一体のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	②コミュニティ・スクール の導入【教育】	行 平成29 (2017)年4 月までにす べての中学 校(1校)に	平(2016) ででは、アイマのででは、アイでは、1016) ででは、1016 でのでは、1017 では、1017	0	0	5	_	_	5	100.0%	・コミュニティ・スクール 導入促進事業[国]	・小学校4校、中学校1校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールに指定している。各校とも年3回程度学校運営協議会を開催、また、年1回各校の代表者が集まり連絡協議会も開催している。これにより、学校、地域、家庭がそれぞれの立場で子どもたちを育てていくという意識が醸成され、地域とともにある学校づくりを行っている。	・学校運営協議会を 定期的に開催し、各 CSの実情に応じた取 組が行われた。	継続	・今後は、さらに情報 発信に努え、より多くの方にコミュニティらい、地域全体でがある。 ・また、より効果的いでいるので、各SCにおいて、 ・また、各SCにおいて、 ・また、各SCにおいる。 ・また、本質においる。 ・また、本質においる。 ・また、本質においる。
			③協働型の学校モデル 構築【教育】	末までに子 どもと学校支 援のプラット	平成28 (2016)年度 末までに子 どもと学校支 援のプラット フォームと新 たな学様 デルを構築	0	0	5	_	_	5	100.0%	・首長部局との協働に よる新たな学校モデル 構築事業[国]	・平成28年9月にスクールソーシャルワーカーを中心とした学校プラットホームを設置。 児童生徒の個別支援シートを作成し、首長部局や関係機関を連携しながら問題を抱える児童生徒への支援を行っている。	・児童生徒一人一人の困り感に応じて丁寧な支援体制を構築することができたが、今後の課題としては、スクールソーシャルワーカーの常勤化など、更なる充実が必要。	継続	・支援体制の強化及 び支援のゴールの明 確化を図り、各校にお けるSSWの計画的な 活用を促していく必要 がある。
			④山村留学の拡充【教育】	④山村留学 児童	平成31 (2019)年度 までに10名 の受入体制 を拡充		10	8	8	11	11	110.0%	•山村留学事業[国]	・PRパンフレットの作成、HPの更新や新たに山村留学校の看板を設置するなどPRに努めている。 それらの取組により、児童数も徐々に増えている。	 ・児童数は、増加傾	継続	・より一層、山村留学 校のよさを、広く周知 する取組を進める必 要があるが、一方で、 現在は受け入れする 住宅が不足している ため、受け入れ住宅 の確保が急務であ る。

No.1政策パッケージ「子育てNo.1のまち」

	-1 ht 0						重要	業績評価指	標(KPI)					実績	41 B 14 5-7		۸ (// ۵ الم
重点項目	政策パッ ケージ 	施策群	具体の事業 【PLAN】	項目	指標目標 (X)	H26 基準値	H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	達成値 (Y)	達成率 Y/X(%)	関係する事業名	(具体的な取組み) 【DO】	効果検証 【CHECK】		今後の方針 「ACTION】
		ウ:子育て環境を充実 させるための広域連 携強化 東神楽町単体での取 組に合わせて、上川 中地域ですでに心でに心でいる連携強化を 要す。	①「君の椅子」を核とする広域連携の強化【こども】	Iについて は、連携体(連治針(町、 が が が が が が が が が が が が が が が が が が	自治体(東川 町、剣町、東川 別町、大木 川売 開売 リカー リカー リカー リカー リカー リカー リカー リカー リカー リカー	1	1	1	1	1	1	100.0%	・子育て支援事業[単]	節目となる500脚記念贈呈式を開催した。 「君の椅子」贈呈式には、地域のお年寄りにプレゼンターをお願いし、地域全体で子どもの誕生を祝う風土を醸成し、地域力の向上に役立てている。また、「君の椅子」にあわせて町オリジナルのフォトフレームの贈呈と、前年度に生まれた子を対象とした写真コンテストも毎年開催している。・広域連携としての取り組みは、毎年行われる「君の椅子」の集いでは、各町の特産品等をPR、活用し、それぞれの住民相互の交流が図られるような開催町の特徴を生かした催しを行っている。	たに福島県 葛尾 デュータトに 福島県 リカー に おいまれ かっかい かっかい かっかい かっかい かっかい かっかい かっかい かっか	継続	・広域連携事業における町のPR効果を高めるために、関係町村との連携強化をNを行うながらなる情報発信の強と考えられる。

5. 地方創生関連交付金事業の効果検証

地方創生加速化交付金事業 効果検証シート

事業名	北北海道に貢献す	る"稼ぐ"旭川空港	構築プロジェクト							
担当課	まちづくり推進課	事業実施年度	平成28年4月か 平成29年3月ま		東神楽町 総合戦略基		新しい人の流れを作	る	実施方法	広域連携
	加川売港の利用			に向けて ヤリ	1	- ビコ (+生)	、東神楽町の三者に	予	総事業費(千円)	3,731
事業概要		産PRや広く旭川空					、泉仲栄可の三省に は域内外へ観光や地	算 状 況	交付金額(千円)	3,731
								次	一般財源(千円)	_
		指標値		目標値	実績値			達成状	況	
	KPI①	旭川空港乗降客数	女	111万人	112万人	目標達成	※旭川市地方創生加	巾速化交	付金事業実施報告	より
重要業績評価指標 (KPI)	KPI2									
	KPI3									
	KPI4									
活動状況	エアドゥ機材への記念講演会の実台湾観光プロモー		グ		主な効果	就航した。・観光プロ	機材へ東神楽町及びがことで、知名度の向上が ことで、知名度の向上が 1モーションの実施によ 米の輸出につながった	が図られ、り、台湾	た。	
	改善余均	也の検証	観光プロモーシ 要があった。	タンについては	は、コンテンツ(の準備不足	とだったことから、商品	、ターゲ	ットなど明確な目標	を設定する必
取組の検証	今後6	の方針	予定通り事業を	完了		引き続きが を実施す <i>-</i>	但川市や近隣市町村と る。	≤連携し	、空港利用拡大に向]けた取り組み
外部有識者からの評	価					,				
事業評価	KPIの達成に有効 ⁻	であった	意見等	東神楽町に直ないか。	接的な影響与	テえるKPI排	≦標があれば、町へもス	たらした:	効果を測定すること	ができたのでは

地方創生加速化交付金事業 効果検証シート

事業名	健康食育による"和	家ぐ"地域産業育成	 事業							
担当課	健康ふくし課	事業実施年度	平成28年6月か 平成29年3月ま		東神楽町 総合戦略基		安定した雇用の創出 新しい人の流れを作		実施方法	単独
	町民の健康意	************************************	の延伸 医療費	の適正化を図	るため、(株)・	タニタと事業	業連携し、歩数や体組	予	総事業費(千円)	34,888
事業概要	成などの情報を健 「ひがしかぐら健	康情報管理システ. 康くらぶ」を設立し、	ムを活用し、数値 健康事業推進に	恒化することで「 こあたり住民の	からだを見え リーダ <i>ーと</i> なり	る化」して		算 状	交付金額(千円)	32,575
	核としながら、企業	ぎや大学等と連携し	、地域の活性化 [:]	を図る健康また	らづくり事業。			況	一般財源(千円)	2,313
		指標値		目標値	実績値			達成状	· :況	
	KPI(1)	健康コンシェルジュ	L の数	3人	4人	達成				
重要業績評価指標 (KPI)	KPI2	町民一人あたり医	療費	全国平均	25,854円	全国平均	は達成できなかったが	、当初の	直よりも減少	
	KPI3	朝食に野菜を食べ	る子どもの割合	5%アップ	54%	達成				
	KPI4	町民の平均歩数		男:6,160歩 女:5,146歩	男:6,984歩 女:6,029歩					
活動状況	9月健康の駅オー 10月キックオフセ	事業PR、新規会員が プン ミナー、測定会(体 を数イベント、タニタ)	组成•血圧)		主な効果	状況であ	実施の町民実態調査にったが、「ひがしかぐられ 相乗効果により、町民の。	健康くら	ぶ」の活動を通して、	個と集団の取
	改善余	地の検証	生活習慣病発症	に 予防の段階の	の会員数(働き	き盛りの無	関心層)の増加			
取組の検証	今後(の方針	事業の継続				として効果をあげるたる に向けて取組を強化す]あるイベントの開催	などにより会員
外部有識者からの評	価									
事業評価	KPIの達成に有効	であった	意見等				ごあり、今後の高齢化に ら、健康くらぶの会員確			

地方創生推進交付金事業 効果検証シート

事業名	東神楽ブランド創と	出産業支援事業								
担当課	まちづくり推進課	事業実施年度	平成28年12月 <i>1</i> 平成31年3月ま		東神楽町総合戦略		安定した雇用の創出		実施方法	単独
					や加工品など	ごの名産品	を、「東神楽の種と実	予	総事業費(千円)	62,799
事業概要	町で生産される別	シンド化し、販路拡大 豊産物を使用した新 品、製品、技術の則	たな加工食品を	、民間事業者				算 状	交付金額(千円)	31,399
		活用し、雇用の創出					200,000	況	一般財源(千円)	31,400
		指標値		目標値	実績値			達成物	 記	
	KPI(1)	町内の従業者数		3,500人	R1	経済センサ	ナス基礎調査年			
重要業績評価指標 (KPI)	KPI2	新規の創業事業者	首数	2か所	5か所					
	KPI3	新製品開発数		2製品	3製品	チョコレー	-ト「ドコラ」、ドレッシンク	ブ「月刊	生ドレ」、ソフトクリー	ムケーキ
	KPI4									
活動状況	種と実セレクトのI	した新製品の開発 、販路拡大支援	クト」の立ち上け	f	主な効果	図られた。 ・新製品開発が開発される。 ・新規創業	也元産品をブランド化しPRす 発支援により、地元食材を活れた。 支援により、新たに地元食れ 支援により、新規商談の成3	き用したチオを活用し	・ ・ョコレート、ソフトクリー <i>L</i> ・た飲食店が開店した。	
	改善余均	他の検証	ブランド化の継	続は、主体とな	る事業者が日	自立できる。	ような仕組み作りが必	要。		
取組の検証	今後(の方針	見直しを行い事	手業を継続		支援を実施	である企業、事業者の減少! する。 高めるため、東神楽ブランド			
外部有識者からの評	価					•				
事業評価	KPIの達成に有効 [・]	であった	意見等	旭川空港など 種と実セレクト	で種と実セレ ·のPRとあわ ⁻	クトのコー [・] せて、町の:	竹内で作ったものを外に ナーを設置し販売する 知名度の向上も必要。 マスコミなどを活用して(ことを検	討できないか。	

地方創生拠点整備交付金事業 効果検証シート

事業名	ひじり野地区コミュ	ニティ拠点施設整(備事業							
担当課	まちづくり推進課	事業実施年度	平成29年4月か 平成30年3月ま		東神楽町 総合戦略基		・地域内外の人の拠点づくり・東神楽町で活躍する人を応ロジェクト	援するプ	実施方法	単独
								予	総事業費(千円)	278,219
事業概要	たり健康で生き生き		地域づくりを目ま	旨すため、住民	の交流拠点と		が齢者まで多世代にわ の駅」としてふれあい	算	交付金額(千円)	113,554
	文 加品 07 组 未 次 0	"以 沙 C、M43女 5 つ/		改正備と大心。	0			況	一般財源(千円)	164,665
		指標值		目標値	実績値			達成状	況	
	KPI(1)	にぎわい交流広場	の売上額	1,300万円	515万円	未達成	※H30実績報告値			
重要業績評価指標 (KPI)	KPI2	地区人口の維持		6,150人	6,156人	目標達成	, ※H31.3末時点			
	KPI3	施設を拠点として	舌動する団体数	50団体	46団体	未達成	※H31.3末時点			
	KPI4									
活動状況	平成29年9月から 運用を開始している	・ 着工し、平成30年3 <i>。</i> る。	月に完了。平成3	80年4月から	主な効果	上が向上し ・施設整備 が高まり、 ・サークル	交流広場ができたことに した。 と合わせて図書室や行政施設の利用者が増えた。 活動など利用団体数が増 交流機会が高まった。	汝事務室	、簡易郵便局を整備し	たことで利便性
	改善余均	他の検証	・にぎわい交流 る。	広場の利用団	体数は少なく		たため、今後は利用を	促進す	るため施設の周知る	≤啓発に努め
取組の検証	今後(の方針	予定通り事業を	完了		今後も利 用を目指	用促進に努めながら、 す。	地域の3	交流拠点施設として	更なる有効活
外部有識者からの評	価									
事業評価	KPIの達成に有効 ^っ	であった	意見等	にぎわい広場	の利用が少な	いため、田	こって大変有効な施設と 町でソフト事業を仕掛け ってもらうために、何か町	けてはい	かがか。	設置してはいか

地方創生推進交付金事業 効果検証シート

事業名	大雪カムイミンタラ	DMOによる都市型	スノーリゾート地	域構築事業						
担当課	産業振興課	事業実施年度	平成30年4月か 平成31年3月ま		東神楽町総合戦略		新しい人の流れを作	る	実施方法	広域連携
	ることで、通年雇用	の促進と地域所得	の向上をめざす	広域連携事業			現光客数の増加を図 、冬季間の子どもの	予	総事業費(千円)	15,366
事業概要	運動不足といった		から、これらを解				シの森」を開設し、冬	予 算 状 況	交付金額(千円)	7,683
	また、これらを観	光圏域の周遊モデ	ルコースとして組	∃み込み、滞在 	時間や期間の)長期化を[図る。	沈	一般財源(千円)	7,683
		指標值		目標値	実績値			達成状	況	
	KPI(1)	DMO圏域観光宿泊延数	效 1,685千泊(H28)	2,010千泊		(一社)大	雪カムイミンタラDMO	が測定	している	
重要業績評価指標 (KPI)	KPI2	DMO圏域冬季観光宿泊:	延数 477千泊(H28)	540千泊						
	KPI3	旅行消費額 42千	円/人(H28)	50千円/人						
	KPI4									
活動状況	1月10日:オープン 1月19日:第1回雪 2月3日:節分祭り 3月10日:クローズ	上バブルサッカーブ	大会「大雪山カッ	プ」	主な効果	日から3月 には、「バ	Fィビティとして、森林4 10日まで土日祝で計2 ブルサッカー大会」を『 ↑祭り」として、乗り放題	22回営 開催し、	業し、1,195人が来場 9チーム46名が参加	した。1月19日 した。2月3日
	改善余均	也の検証	PRが遅かったこ	ことによる周知	不足					
取組の検証	今後(の方針	事業の継続				生交付金を活用し施設 交付金終了後でも自			
外部有識者からの評	価									
事業評価	-	_	意見等	森林公園での バブルサッカ-	開催と合わせ -大会は場所	とて、ひじり を選ばない	曽やしてほしい。 野地区でも開催できな ^ので、森林公園以外 、ントとして定着すれば	でもでき		町の経済へ派